



2026年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月7日

上場会社名 株式会社ピー・ピーシステムズ
コード番号 4447 URL <http://www.pbssystem.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 富田 和久
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長兼経理部長 (氏名) 三堂 健一 TEL 092-481-5669 (代表)
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第3四半期の業績（2025年10月1日～2026年6月30日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期第3四半期	1,795	3.3	95	—	102	—	68	—
2025年9月期第3四半期	1,738	15.8	8	△91.2	8	△91.4	2	△96.6

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期第3四半期	11.83	11.66
2025年9月期第3四半期	0.36	0.35

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期第3四半期	1,709	1,047	61.3
2025年9月期	1,819	1,152	63.4

(参考) 自己資本 2026年9月期第3四半期 1,047百万円 2025年9月期 1,152百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年9月期	—	10.00	—		
2026年9月期（予想）				12.50	22.50

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日（2026年8月7日）公表いたしました「配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,000	13.9	245	96.3	251	97.8	165	93.0	27.25

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期3Q	6,592,300株	2025年9月期	6,583,500株
② 期末自己株式数	2026年9月期3Q	761,495株	2025年9月期	761,495株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年9月期3Q	5,822,283株	2025年9月期3Q	6,120,059株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
（1）経営成績に関する説明	2
（2）財政状態に関する説明	3
（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
（1）四半期貸借対照表	4
（2）四半期損益計算書	6
（3）四半期財務諸表に関する注記事項	7
（継続企業の前提に関する注記）	7
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）	7
（四半期キャッシュ・フロー計算書関係）	7
（セグメント情報等の注記）	8
（重要な後発事象）	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、緩やかな回復基調で推移しました。中東情勢の混乱の影響や為替変動等により先行きに不透明感が拭い切れない状況が続きましたが、雇用・所得環境の改善や堅調な設備投資、各種政策効果が景気を下支えしました。

当社が属する情報通信サービス業界は、企業のDX投資意欲が引き続き旺盛であり、サイバー攻撃の高度化を背景としたレジリエンス需要も拡大傾向にあります。一方で、世界的なAI需要の拡大を受け、サーバー・ストレージをはじめとするハードウェアの調達環境が一段と逼迫してきております。第2四半期に生じたハードウェア機器の納期の長期化（従来の約2ヶ月から4～6ヶ月）は当第3四半期においても継続しており、価格の高騰も続いています。

このような環境下、当社はセグメント別の成長戦略の推進に取り組むとともに、福岡本社と東京オフィス間の人員配置を見直し、営業及びエンジニアの体制を強化しました。また、営業プロセスのさらなる整備に着手し、若手を中心としたエンジニアの育成と売上稼働率の向上に取り組みました。

これらにより、売上高は前年同期を上回りました。エモーショナルシステム事業において、大型案件の売上を計上できたことが主な要因です。一方で、セキュアクラウドシステム事業は若干の減収となりました。当第3四半期会計期間ではライセンス販売及び実装売上の増加により増収に転じたものの、累計期間では前年同期をやや下回りました。ハードウェア機器の納期の長期化の影響が大きく、今後も改善がやや見通しにくいことから第4四半期以降も検収時期の後ろ倒しが懸念されます。

営業利益も前年同期を大きく上回りました。物販売上は前年同期比6.3%減となりましたが、当社の中核であるプラットフォームの実装売上が同34.6%増と大幅に伸びたことが寄与しました。これにより、利益率の高い実装売上の構成比は34.0%（前年同期27.3%）に向上し、営業利益率は5.3%（前年同期0.5%）に改善しております。

人財の採用も計画通りに進んでいます。2026年4月に新卒10名が入社し、当第3四半期会計期間で3名が中途入社しました。なお、来期2027年4月入社の新卒採用の内定者は、本資料発表日現在で7名となっております。

これらの結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,795,767千円（前年同期比3.3%増）、営業利益は95,469千円（前年同期比1,023.6%増）、経常利益は102,154千円（前年同期比1,136.5%増）、四半期純利益は68,893千円（前年同期比3,061.0%増）となりました。

なお、当第3四半期累計期間の売上高は当初計画に対しやや未達となっております。ハードウェア機器の納期の長期化により検収時期が後ろ倒しとなったことに加え、部材価格の高騰を受けて顧客側の投資意思決定が慎重になり、一部商談の進捗や成否に影響が出たことによるものです。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

（セキュアクラウドシステム事業）

当第3四半期累計期間は、基幹システムのハイブリッドクラウド、サイバーセキュリティ、製造業向けスマートファクトリーの「三つの柱」の推進に注力しました。

基幹システムのハイブリッドクラウドでは、医療・金融・製造業など幅広い業種において、データセンター環境の整備や仮想化基盤の刷新を進めるとともに、セキュリティ関連案件のクロスセルを推進しました。サイバーセキュリティでは、EDR導入とランサムウェア対策を目的としたバックアップ環境の構築を二本柱として事業を展開しました。製造業向けスマートファクトリーでは、既存顧客の複数工場におけるネットワーク刷新を推進したほか、製造業1社においてAI型ネットワーク監視を導入し、製造現場でのAI活用に向けた基盤整備に着手しました。

売上高は、当第3四半期会計期間においては仮想化基盤関連のライセンス販売及び実装売上の増加により前年同四半期を上回りましたが、当第2四半期までの減収を補うには至らず、累計では前年同期をやや下回りました。一方、収益性の高い実装案件の比重が高まったことにより、営業利益率は前年同期を上回る水準となりました。

その結果、セキュアクラウドシステム事業の売上高は1,668,809千円（前年同期比1.6%減）、セグメント利益は301,115千円（前年同期比28.2%増）となりました。

（エモーショナルシステム事業）

当第3四半期累計期間は、MetaWalkers®の防災・アトラクション分野への展開と、企業・自治体向けメタバースの提案活動を推進しました。

売上高は、XR（Extended Reality）技術を活用したアミューズメント分野での案件が中心となり大きく伸びまし

た。前期に受注した大型施設リニューアル案件の開発の進捗に応じた売上に、関連機器の納入による売上加わったことによるものです。

その結果、エモーショナルシステム事業の売上高は126,958千円（前年同期比194.1%増）、セグメント利益は15,600千円（前年同期はセグメント損失10,761千円）となりました。

とはいえ、当第3四半期累計期間の売上高は特定の大型案件の進捗に負うところが大きく、安定的な収益基盤の構築は道半ばといえます。四半期毎の売上高及び損益も案件の獲得や検収時期次第で大きく変動しますので引き続き、XR技術を活用したアミューズメント分野を中心に、防災・自治体分野を含む各分野において案件の獲得に取り組んでまいります。

なお、全社営業利益は、各セグメントの営業損益の合計から、報告セグメントに分配していない全社費用221,245千円を差し引いた数値となっています。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費です。

（2）財政状態に関する説明

（資産）

当第3四半期会計期間末の資産の部は、前事業年度末に比べて110,060千円減少し、1,709,107千円となりました。これは主に、受取手形、売掛金及び契約資産の減少（前事業年度末に比べて197,524千円の減少）、商品及び製品の増加（前事業年度末に比べて103,396千円の増加）、現金及び預金の減少（前事業年度末に比べて21,553千円の減少）、仕掛品の増加（前事業年度末に比べて19,677千円の増加）、未収還付法人税等の減少（前事業年度末に比べて18,510千円の減少）等によるものであります。

（負債）

当第3四半期会計期間末の負債の部は、前事業年度末に比べて5,402千円減少し、661,318千円となりました。これは主に、前受金の増加（前事業年度末に比べて84,135千円の増加）、買掛金の減少（前事業年度末に比べて77,664千円の減少）、長期前受金の減少（前事業年度末に比べて40,995千円の減少）、未払費用の減少（前事業年度末に比べて25,037千円の減少）、賞与引当金の増加（前事業年度末に比べて22,629千円の増加）等によるものであります。

（純資産）

当第3四半期会計期間末の純資産の部は、前事業年度末に比べて104,658千円減少し、1,047,789千円となりました。これは、配当金の支払による利益剰余金の減少174,660千円、四半期純利益の計上による利益剰余金の増加68,893千円、新株発行による資本金の増加554千円及び資本剰余金の増加554千円によるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。今後、様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

（1）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	775,372	753,818
受取手形、売掛金及び契約資産	763,431	565,907
電子記録債権	1,840	9,336
商品及び製品	124,385	227,782
仕掛品	4,595	24,272
原材料及び貯蔵品	—	205
未収入金	6,136	126
未収還付法人税等	18,510	—
前払費用	31,233	31,672
預け金	1,973	2,243
その他	761	1,337
流動資産合計	1,728,241	1,616,704
固定資産		
有形固定資産		
建物	20,670	20,670
減価償却累計額	△1,820	△2,858
建物（純額）	18,850	17,811
構築物	2,195	2,195
減価償却累計額	△2,032	△2,073
構築物（純額）	163	122
工具、器具及び備品	52,491	66,927
減価償却累計額	△40,019	△44,274
工具、器具及び備品（純額）	12,471	22,653
有形固定資産合計	31,485	40,587
無形固定資産		
ソフトウェア	13,704	9,338
電話加入権	164	164
無形固定資産合計	13,869	9,502
投資その他の資産		
投資有価証券	8,153	8,879
出資金	30	30
敷金	23,079	22,440
差入保証金	1,019	1,019
繰延税金資産	13,290	9,943
投資その他の資産合計	45,572	42,312
固定資産合計	90,926	92,402
資産合計	1,819,168	1,709,107

（単位：千円）

	前事業年度 (2025年9月30日)	当第3四半期会計期間 (2026年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	351,194	273,529
未払金	28,583	32,329
未払費用	60,639	35,602
未払法人税等	1,569	17,234
未払消費税等	1,753	2,120
前受金	163,026	247,162
預り金	7,107	18,870
賞与引当金	—	22,629
受注損失引当金	145	48
その他	—	87
流動負債合計	614,020	649,613
固定負債		
長期前受金	52,699	11,704
固定負債合計	52,699	11,704
負債合計	666,720	661,318
純資産の部		
株主資本		
資本金	350,264	350,819
資本剰余金		
資本準備金	350,264	350,819
資本剰余金合計	350,264	350,819
利益剰余金		
利益準備金	165	165
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	924,124	818,357
利益剰余金合計	924,289	818,522
自己株式	△472,371	△472,371
株主資本合計	1,152,447	1,047,789
純資産合計	1,152,447	1,047,789
負債純資産合計	1,819,168	1,709,107

（2）四半期損益計算書

（単位：千円）

	前第3四半期累計期間 （自 2024年10月1日 至 2025年6月30日）	当第3四半期累計期間 （自 2025年10月1日 至 2026年6月30日）
売上高	1,738,659	1,795,767
売上原価	1,300,296	1,282,898
売上総利益	438,362	512,869
販売費及び一般管理費	429,865	417,399
営業利益	8,496	95,469
営業外収益		
助成金収入	—	5,235
受取家賃	67	—
受取利息	520	1,149
受取損害賠償金	3,000	—
雑収入	340	598
営業外収益合計	3,927	6,982
営業外費用		
支払利息	82	—
保証料	226	50
支払手数料	539	—
投資事業組合運用損	241	248
為替差損	211	—
損害賠償金	2,860	—
営業外費用合計	4,162	298
経常利益	8,261	102,154
税引前四半期純利益	8,261	102,154
法人税、住民税及び事業税	679	29,915
法人税等調整額	5,402	3,346
法人税等合計	6,082	33,261
四半期純利益	2,179	68,893

（3）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書関係）

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 （自 2024年10月1日 至 2025年6月30日）	当第3四半期累計期間 （自 2025年10月1日 至 2026年6月30日）
減価償却費	12,223千円	9,820千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間（自 2024年10月1日 至 2025年6月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 （注）1	四半期 損益計算書 計上額（注）2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,695,490	43,168	1,738,659	—	1,738,659
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,695,490	43,168	1,738,659	—	1,738,659
セグメント利益又は 損失（△）	234,936	△10,761	224,175	△215,678	8,496

（注）1. セグメント利益又は損失（△）の調整額△215,678千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失（△）は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期累計期間（自 2025年10月1日 至 2026年6月30日）
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額 （注）1	四半期 損益計算書 計上額（注）2
	セキュアクラウド システム事業	エモーショナル システム事業	計		
売上高					
外部顧客への売上 高	1,668,809	126,958	1,795,767	—	1,795,767
セグメント間の内 部売上高又は振替 高	—	—	—	—	—
計	1,668,809	126,958	1,795,767	—	1,795,767
セグメント利益	301,115	15,600	316,715	△221,245	95,469

（注）1. セグメント利益の調整額△221,245千円は、報告セグメントに分配していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。